

## 2024年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年2月13日

上場会社名 株式会社かんな丸 上場取引所 東  
コード番号 7585 URL http://www.kannanmaru.co.jp  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 野々村 孝志  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理部長 (氏名) 宮永 一彦 TEL 048-815-6699  
四半期報告書提出予定日 2024年2月13日 配当支払開始予定日 -  
四半期決算補足説明資料作成の有無: 無  
四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年6月期第2四半期の業績 (2023年7月1日～2023年12月31日)

## (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年6月期第2四半期	815	36.1	△96	-	△96	-	△103	-
2023年6月期第2四半期	599	-	△202	-	△199	-	△212	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年6月期第2四半期	△27.28	-
2023年6月期第2四半期	△55.68	-

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年6月期第2四半期	1,541	751	48.8
2023年6月期	1,681	854	50.8

(参考) 自己資本 2024年6月期第2四半期 751百万円 2023年6月期 854百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年6月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年6月期	-	0.00	-	-	-
2024年6月期(予想)	-	-	-	-	-

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

2024年6月期の配当予想につきましては、現時点では未定としております。

## 3. 2024年6月期の業績予想 (2023年7月1日～2024年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,650	23.5	△130	-	△135	-	△140	-	△36.73

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年6月期2Q	4,351,308株	2023年6月期	4,351,308株
② 期末自己株式数	2024年6月期2Q	539,812株	2023年6月期	539,761株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年6月期2Q	3,811,515株	2023年6月期2Q	3,811,547株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因等により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P2「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	3
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第2四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	7
(セグメント情報等) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における外食業界は、コロナ禍により落ち込んでいた外食需要の全体的な高まりがあり、徐々に回復の兆しが見えてきました。一方で、不安定な国際情勢を背景とした、世界的な物価上昇による原材料費の高騰、人手不足に起因する人件費の上昇のみならず、最低賃金の引き上げに伴う賃金の上昇もあり、人件費及び採用費の上昇傾向は顕著となり、依然として経営環境は厳しい状況となっております。

こうした状況の下、当社は、事業ポートフォリオの組み替えを進めるとともに、運営店舗のコスト構造の見直しを進め、アフターコロナの環境下においてもお客様にお選びいただける店舗体制づくりを進めております。

当社が主力として運営しております居酒屋業態においては、飲食店でご飲食する素晴らしさを感じていただけるように、企業理念を具現化するための20項目を定めてスタッフ全員が一丸となって取り組み、お客様に笑顔でお帰りいただくように注力しております。ミステリーショッパーによるお客様の声を店舗の営業に活かすことにより一人でも多くのお客様にご来店いただけるお店づくりに取り組んでおります。新たに採用においても、様々な媒体やリファラル採用、SNSの活用や飲食とは別の業態への進出による新たな人材採用も進めております。

店舗戦略においては前期末に業態転換のために閉店していた「日本海庄や武蔵浦和店」が、「じんべえ太郎」、「VANSAN」、新たに組み込む女性専用AIパーソナルジム「FURDI（ファディー）」の3店舗として10月開店いたしました。この武蔵浦和店再生のプロジェクトは計画を上回る滑り出しをしており、当社の業績回復の起爆剤として、押し進めてまいります。

当第2四半期会計期間末の店舗数は、大衆割烹「庄や」16店舗、「日本海庄や」3店舗、カラオケルーム「うたうんだ村」1店舗、大衆すし酒場「じんべえ太郎」8店舗、Italian Kitchen「VANSAN」3店舗、女性専用AIパーソナルジム「FURDI」1店舗の合計32店舗となっております。

上記の結果、当第2四半期累計期間の業績は売上高815,822千円、売上総利益は561,675千円、販売費及び一般管理費については658,417千円となり、営業損失は96,741千円となりました。

経常損失につきましては96,491千円、税引前四半期純損失99,823千円となり、四半期純損失103,971千円となりました。

セグメントの業績については、次のとおりであります。

当社のセグメントはこれまで料理飲食事業の単一セグメントでありましたが、武蔵浦和プロジェクトの3店舗が開店したことにより、当第2四半期会計期間より女性専用AIパーソナルジム「FURDI」を「その他」として追加し、「料理飲食事業」及び「その他」として2区分に変更しております。

料理飲食事業については、従前より報告しております「庄や」「日本海庄や」「うたうんだ村」「じんべえ太郎」「VANSAN」であり、その他事業については、女性専用のAIパーソナルフィットネスジム「FURDI」であります。

また、その他については、前年同四半期実績がないため、比較情報を記載しておりません。

	料理飲食事業	その他
売上高	814,546千円	1,276千円
(前年同期比)	(35.9%増)	(一)
セグメント利益又は損失(△)	6,161千円	△11,207千円
(前年同期比)	(一)	(一)

（2）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末における流動資産は641,329千円となり、前事業年度末に比べて243,402千円の減少となりました。これは主に、現金及び預金が254,395千円減少したことによるものであります。

また、固定資産は900,538千円となり、前事業年度末に比べて103,723千円の増加となりました。これは主に、建物等の有形固定資産が92,537千円増加したことによるものであります。

当第2四半期会計期間末における流動負債は225,016千円となり、前事業年度末に比べて16,294千円の減少となりました。これは主に、未払消費税等26,918千円減少によるものであります。

また、固定負債は564,864千円となり、前事業年度末に比べて20,583千円の減少となりました。これは主に、長期借入金の減少19,362千円によるものであります。

当第2四半期会計期間末における純資産は751,986千円となり、前事業年度末に比べて102,801千円の減少となりました。これは、四半期純損失の計上の結果、利益剰余金が103,971千円減少したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、453,964千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において営業活動の結果、使用した資金は91,907千円となりました。

これは主に、税引前四半期純損失99,823千円、減価償却費27,339千円、仕入債務の増加額15,901千円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において投資活動の結果、使用した資金は142,005千円となりました。

これは主に、有形固定資産の取得128,330千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において財務活動の結果、使用した資金は20,483千円となりました。

これは主に、長期借入金の返済による支出18,330千円によるものであります。

（3）継続企業の前提に関する重要事象等

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の取り扱いが2類から5類へ移行にともない、お客様のご来店客数の回復傾向は顕著となり、それに伴う売上高も回復してまいりました。しかしながら地域により売上高の回復には大きく差が出始めており、利益の回復も限定的な状態となっております。

また当社は6期に亘り多寡はあるものの営業損失を計上しており、当第2四半期累計期間においても業績回復の途上であり、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が継続しております。

このような状況を解消するために、当社は、事業の収益改善と資金繰りの安定化を目的として下記の改善策を実施しております。

まず事業の収益改善、店舗損益構造の改革を実施しております。具体的には下記武蔵浦和店再生プロジェクトの取組みを例とした既存店舗の活性化を図り売上を取り戻すための基本施策を一つ一つ実施しております。コスト改善に関しては、仕入に関する新システムの導入、販促活動の抜本的な見直しを実施しております。またコロナ禍を経て変化したお客様の行動様式を捉え、既存店の駅前立地を活かし、アフターコロナで好調なVANS AN業態及びじんべえ太郎業態への業態変更に取り組むとともに、既存ブランドにおいてもお客様が来店しやすくなるファサードへの改装を計画しております。

次に資金繰りの安定化のため、政府系金融機関並びに民間金融機関からの協調融資による新型コロナウイルス感染症に関する特別貸付の長期低利融資を活用し、また当座貸越の枠の設定及び活用を視野にいれながら、運転資金の維持確保と一定額のキャッシュ水準の積み増しと維持に努めております。

これらの対応策により売上高の回復とともに店舗収益改善と事業の効率化を図り、収益構造の改善を行ってまいります。

当社は、当第2四半期会計期間末現在で、現預金残高554,086千円、純資産残高751,986千円を有しており、現時点では安定的な財政状態を維持しております。そのため、これを基盤として上記対応策を進めていくことにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

（4）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年8月14日に公表いたしました第2四半期累計期間及び通期の業績予想につきましては、現在のところ変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年6月30日)	当第2四半期会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	808,482	554,086
売掛金	39,855	48,994
原材料	12,794	14,469
前払費用	18,502	18,952
その他	5,096	4,828
流動資産合計	884,731	641,329
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	257,595	347,691
土地	213,034	213,034
その他（純額）	44,467	46,909
有形固定資産合計	515,097	607,634
無形固定資産	12,955	12,955
投資その他の資産		
差入保証金	198,032	197,092
その他	76,881	88,994
貸倒引当金	△6,152	△6,138
投資その他の資産合計	268,762	279,947
固定資産合計	796,814	900,538
資産合計	1,681,545	1,541,867
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	39,609	55,511
1年内返済予定の長期借入金	36,042	37,074
未払法人税等	4,916	2,457
賞与引当金	1,145	1,185
その他	159,597	128,787
流動負債合計	241,310	225,016
固定負債		
長期借入金	485,621	466,259
資産除去債務	90,910	87,481
その他	8,915	11,123
固定負債合計	585,447	564,864
負債合計	826,757	789,880
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	313,600	313,600
利益剰余金	1,105,173	1,001,201
自己株式	△622,129	△622,159
株主資本合計	846,644	742,641
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8,143	9,345
評価・換算差額等合計	8,143	9,345
純資産合計	854,787	751,986
負債純資産合計	1,681,545	1,541,867

（2）四半期損益計算書  
（第2四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第2四半期累計期間 （自 2022年7月1日 至 2022年12月31日）	当第2四半期累計期間 （自 2023年7月1日 至 2023年12月31日）
売上高	599,487	815,822
売上原価	196,885	254,147
売上総利益	402,602	561,675
販売費及び一般管理費	604,634	658,417
営業損失（△）	△202,031	△96,741
営業外収益		
受取利息	11	6
受取家賃	1,618	-
貸倒引当金戻入額	555	13
その他	541	901
営業外収益合計	2,726	921
営業外費用		
支払利息	33	645
その他	-	27
営業外費用合計	33	672
経常損失（△）	△199,338	△96,491
特別損失		
減損損失	1,451	-
店舗閉鎖損失	-	3,331
貸倒引当金繰入額	7,826	-
特別損失合計	9,277	3,331
税引前四半期純損失（△）	△208,616	△99,823
法人税、住民税及び事業税	4,247	2,466
法人税等調整額	△643	1,681
法人税等合計	3,603	4,148
四半期純損失（△）	△212,219	△103,971

（3）四半期キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第2四半期累計期間 （自 2022年7月1日 至 2022年12月31日）	当第2四半期累計期間 （自 2023年7月1日 至 2023年12月31日）
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純損失（△）	△208,616	△99,823
減価償却費	23,121	27,339
減損損失	1,451	-
店舗閉鎖損失	-	3,331
長期前払費用償却額	1,347	1,241
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△555	△13
受取利息及び受取配当金	△11	△140
支払利息	33	645
売上債権の増減額（△は増加）	△10,661	△9,138
棚卸資産の増減額（△は増加）	△2,255	△1,675
仕入債務の増減額（△は減少）	10,541	15,901
その他	6,805	△24,154
小計	△178,800	△86,486
利息及び配当金の受取額	11	140
利息の支払額	△28	△645
法人税等の支払額	△4,960	△4,916
営業活動によるキャッシュ・フロー	△183,778	△91,907
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△30,000	-
有形固定資産の取得による支出	△6,655	△128,330
資産除去債務の履行による支出	-	△13,015
投資有価証券の売却による収入	85	52
貸付けによる支出	-	△549
貸付金の回収による収入	116	65
差入保証金の回収による収入	35,031	1,940
その他	△1,204	△2,168
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,626	△142,005
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	-	100,000
短期借入金の返済による支出	-	△100,000
長期借入金の返済による支出	△30,696	△18,330
配当金の支払額	△22,529	△34
自己株式の取得による支出	-	△30
その他	△6,673	△2,088
財務活動によるキャッシュ・フロー	△59,899	△20,483
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△246,303	△254,396
現金及び現金同等物の期首残高	639,190	708,361
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	25,119	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	418,005	453,964



（4）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、主として「料理飲食事業」を行っております。料理飲食事業は、株式会社大庄のFCとして手作りの和食料理をメインとした「庄や」、「日本海庄や」、カラオケ「うたうんだ村」、株式会社VANSANのFCとしてイタリアンキッチン「VANSAN」、当社独自業態として大衆すし酒場「じんべえ太郎」の運営等を行っております。

(2) 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期会計期間まで、「料理飲食事業」の単一セグメントとして情報を開示しておりましたが、2023年10月より女性専用AIパーソナルフィットネスジムの運営である、「FURDI」事業を運営しております。そのため、当第2四半期会計期間よりセグメントの区分を見直しております。

なお、前第2四半期累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを開示しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、四半期財務諸表作成のために採用している会計処理の方法と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報  
 前第2四半期累計期間(自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期財務 諸表計上額 (注) 3
	料理飲食事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	599,487	599,487	—	599,487	—	599,487
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	599,487	599,487	—	599,487	—	599,487
セグメント利益又は 損失 (△)	△102,957	△102,957	—	△102,957	△99,074	△202,031

当第2四半期累計期間(自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期財務 諸表計上額 (注) 3
	料理飲食事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	814,546	814,546	1,276	815,822	—	815,822
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	814,546	814,546	1,276	815,822	—	815,822
セグメント利益又は 損失 (△)	6,161	6,161	△11,207	△5,046	△91,695	△96,741

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「FURDI」事業を含んでおり  
 ます。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△91,695千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セ  
 グメントに帰属しない管理部門に係る一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期財務諸表の営業損失と調整を行っております。